

スローテンポ通信

第 71 号

2023年11月18日

発行:スローテンポ書店

〒323-0023 小山市中央町3-7-1 ロブレ地階

☎ 0285-32-7211

Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

◎今読んでもらいたい

○『私たちは何を悩んできたか』

—高校生が語った子どものころの悩み
永野恒雄編著 同時代社 2021年
☆☆☆☆☆

この本は、高校生が子どもの頃に何を悩んできたかを綴った作文集だ。立案し、まとめたのは元教師である。

大人が知らないことで、子どもたちは悩んでいる。すぐにでも解決することばかりだ。

不登校、いじめ、自殺など、子どもを取り巻く悲惨な事件が続く。学校は何を教えようとしているのだろうか。

◎ 参加するだけで、本を読みたくなる 読書こんわ会

毎月第4土曜日午後3時~5時

本を紹介の後、自由に話し合います。参加無料、準備不要、出入り自由、発言するしないも自由、とんでも発言歓迎!

次は2023年11月25日(土)

紹介する本は

『私たちは何を悩んできたか』

—高校生が語った子どものころの悩み
永野恒雄編著 同時代社 2021年

子どものころに自分は何を悩んできたか。高校生たちが振り返った。

これを読むと、大人たちは考え込む。かつての自分は何を悩み、今の自分は何を考えているのか。学校は、大人社会を生き延びるための訓練の場なのかもしれない。ブログに紹介文があります。

《話し合いの候補テーマ》

・子どものころ何を考えてきたか。

上手な叱り方、叱られ方

人は、人とのコミュニケーションを通じて成長する。コミュニケーションにはいろいろあるが、「叱る、叱られる」は、切羽詰ったときに重要だ。

歩きスマホで電車のホームから落ちそうな人を見たら、大声で「落ちろぞ!」と怒鳴る。それで無視されたら、大抵の人は、「勝手に落ちこちてしまえ!」とつぶやいて無視する。

言い方や受け方は、それまでの生活環境によって違ってくる。叱り方は、強い、弱いで分けられる。

叱られる側は、受け入れる、受け入れないで、分けられる。受け入れる器に大小があると考えればよくわかる。

本人のためであっても、叱られる側の器に合わせて叱らなければ、受け入れられない。

伝統工芸の達人たちは、若い頃に師匠の元で、叱られて成長した。学校でのスポーツ部活も、かつては先輩に叱られて後輩が育った。授業でも子どもたちは、先生にさんざん叱られてきた。

叱る側は、叱られる側の成長のために叱った。日本には、それを理解できる人が多かった。

ところが、高度経済成長の末期に、日本は突然『ゆとり教育』を取り入れ、「叱って育てる」から「誉めて育てる」に転換した。シゴキや自殺などの事件が重なり、マスコミの援護のもとに、子どもと親たちが反乱したのがきっかけであろう。

家庭での子どものしつけまで変化した。親は誉めるだけで、叱らなくなった。その結果、世代を経るごとに、叱られた経験のない人が増えていった。

かつての叱られた体験までも、「あれは虐待だった」として否定するようになった。日本は叱られる器の極端に小さい人ばかりになった。

レストランで向かい側の客がこちらを向いてスマホを向けているので「写真を撮るなよ」と注意すると、「撮らねえよ!」と反発をくらう。

しつけの悪い若者を、しつける手立

てがなくなった。気付く機会がなければ成長は止まる。

もちろん、はっきりと意味もなく叱っているとわかる場合は、争いを避けるために無視したり、その場しのぎの対応をする方がよいこともある。

ただし、自分の不見識を棚に上げて無意味だと決め付けてはいけない。「器が小さい」とは、まさにこのことをいう。

叱られて得られる気付きや発見は、立派な講習会に参加しても、著名な作家の本を読んでも得られるものではない。講習会や読書で気付きや発見があるのは、自分の過去の発想を振り返り、講習会や本の内容と照らし合わせて考え、努力して運がめぐったときだけだ。

叱られ方さえ身に付ければ、叱られるたびに、貴重な気付きと発見を自分のものにすることができる。

マネー資本主義は、人々をバラバラに孤立化し考えなくさせ、餌だけを求める羊に飼育しようとする。その結果、日本人は「叱られて学ぶ」を忘れ、すでに「叱り方」「叱られ方」まで忘れてしまった。

さて、叱る側は、叱られる側の器に合わせなければならない。

タイミングもある。叱られる側が自分のミスに気付いたときが好機だ。受け入れの器も一箇所ちょっとふくらんでいる。その「ま、いいか」の瞬間を逃さず、適切な言葉で叱ることだ。

口論しているときは最悪である。叱っても「あんただって」や「叱り方が悪い」といって反発してくるときは、受け入れの器は閉じている。

落ち込んでいるときも、器が閉じている。

別のことに夢中になっているときは、受け入れの器が変形している。叱っても、受け入れられることはない。

現代日本は「叱る」をいけないことだと決めつけているようだが、上手な叱り方で復活させようではないか。
(ブログより抜粋)



本好きも本嫌いも
本のよさを再発見する!

スローテンポ書店

小山駅西口 ロブレ地階

オープン: 火、木、土 13時~19時

祝日はお休みです。



日本を見つめ、世界を見つめ、自分を見つめる。本があなたを待っています。

☆すろーてんぽ懇話会

悩みごとや困りごとを出してください。課題解決型で話し合います。悩みごとのある人もない人も、どなたも歓迎!
第2土曜日 午後3時~5時、参加無料。

☆文章懇話会

文章は最も正確で強力なコミュニケーションツールです。自分で書いた文章を提出してください。本人にしか書けない文章を目指して話し合います。自分自身を再発見します。
第2木曜日午後3時~5時、8月から参加無料になりました。